

抜歯後に生じた破傷風の一例

厚生連上越総合病院・耳鼻咽喉科

五十嵐良和

症例 77歳 無職 男性

主訴 頸部の疼痛硬直、嚥下困難

既往歴 高血圧（3年前より未治療）

破傷風予防注射歴 不明

現病歴 平成12年10月10日、
近医歯科にて下顎歯、右2本、左1本を抜歯。
抗生物質を処方されたが、自己判断で服用せず。
10月13日（抜歯後3日目）、
頸部の疼痛をともなう硬直と嚥下困難が出現。
10月16日（抜歯後6日目）、
当院内科受診、嚥下困難の原因精査で耳鼻科受診。

現 症

体温36.8度、 血圧155/74

頸部は熱感をともない、後方へ伸展硬直。

軽度の開口障害あり、嚥下・発語困難。

下肢は伸展硬直し歩行できず。

意識清明、呼吸困難なし。

頸部下肢以外の硬直は、はっきりしない。

声帯運動に制限は認めない。

WBC 15700 (Neu 84%、Lym 13%、Mon 3%)、

CRP 10.6

初診時診断

抜歯後の深頸部感染症(嫌気性菌)?

下肢筋硬直の原因は?

梗塞、髄膜炎などの合併?

治療

SBT/CPZ 1g × 2回

CLDM 600mg × 2回

Dexamethazone 4mgより漸減投与

禁飲食

基礎に耐糖能低下? Sliding Scale 使用

入院翌日のデータ

血液生化学検査

WBC 16100、CRP 17.4

炎症増悪

FBS 193、US 3+、HbA1c 4.9

耐糖能低下

CPK 194 (14-170)

CPK軽度上昇

画像検査 CT、MRI (頭部、頸部、脊髄)

蜂窩織炎、膿瘍は認めない。

出血、梗塞などの脳疾患も認めない。

入院3日目

症状 頸部・下肢硬直、嚥下困難は不変
発語はやや改善、呼吸困難なし

髄液検査

混濁なく、細胞数増加なし

髄膜炎は否定的

喀痰培養(含嫌気性培養)

Streptococcus、Micrococcus species

相当する疾患を推定できず

診 断

新潟労災病院、江塚脳外科部長にコンサルト。

筋硬直をきたす感染症は、破傷風のみ。

抜歯も破傷風の原因になりうる。

アウス後、全身痙攣をおこし救急外来に搬送された破傷風症例を経験しており、これに似ている。

診断後の治療

破傷風に関して調べた結果、
呼吸困難、循環障害、痙攣症状の増悪が予想された。

ICU管理が安全

入院4日目、県立中央病院ICUへ紹介。

転院後、挿管、レスピレーター装着により治療を施行
さる。

破傷風について

原因菌 : Clostridium Tetani (嫌気性桿菌)

外毒素 : Tetanospasmin

持続的な筋緊張と神経過敏を発現

潜伏期 : 数日 ~ 3週間

主症状 :

開口障害(牙関緊急)

声門痙攣、呼吸痙攣、

弓なり緊張、全身性痙攣、



スコットランドの外科医C.Bellによる、
弓なり緊張の絵

破傷風菌の侵入部位

不潔な刺し傷、切り傷、麻薬注射、
新生児の臍帯、分娩後の子宮、
途上国の伝統的薬剤塗布、
不衛生な医療施設における、
抜歯や出産、手術後の感染も少なくない。

破傷菌は世界中の土壤に分布

(我が国も例外でない)

日本における破傷風

	患者	死者
1947年	1625	2221
1991年	28	13

- ・ 1999年3月まで、届け出伝染病。
1968年より、3種混合ワクチン：DPT
(ジフテリア、百日咳、破傷風)の接種開始。
- ・ 現在の日本では、**きわめてまれ**。
理由：ワクチン接種と衛生意識の向上。
- ・ **感染する可能性のある者** **高齢者**
理由：予防接種を受けていない。
接種後、10年以上経過すると免疫消失。

破傷風の病期

: 前駆期

全身違和感、罹患部の硬直感、肩こり、
頸部痛などの不定愁訴

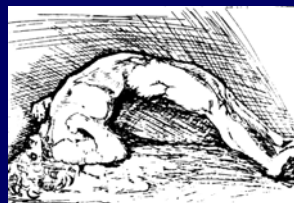
診断確定が困難な時期

: 発症期

開口障害、顔面筋緊張、発語・構音障害、
嚥下障害

耳鼻咽喉科受診の可能性あり

: 痙攣期



頸部硬直、弓なり緊張、自律神経反射亢進、
呼吸障害、脈拍、血圧の変動

ICU管理が必要

: 回復期

上記症状がゆっくりと改善

破傷風の治療

1 菌に対する治療

破傷風トキソイド

抗破傷風ヒト免疫グロブリン(テタノブリン)

ペニシリンG

2 痙攣中の全身管理

挿管、人工呼吸、補液、血圧調節、褥創予防

3 筋硬直に対する治療

鎮静剤、筋弛緩剤

ICU治療が望ましい

まとめ

- ・ 抜歯後に発症した破傷風の一例を報告した。
- ・ 頸部硬直、嚥下困難を認める患者をみたら、
外傷の有無にかかわらず、
破傷風の可能性を考えるべき と痛感した。
- ・ 致命的な疾患であるため、発症早期に診断し、
ICUを有する施設へ紹介することが大切。